

博学連携事業

● 事業概要

地方独立行政法人大阪市博物館機構および一般財団法人大阪市文化財協会と本学は、2019年4月1日(月)にそれぞれ包括連携協定を締結しました。前身の大阪市博物館協会とは2011年から、歴史・文化・美術などの分野で、それぞれの専門性を活かしつつ共同して事業を実施してきましたが、より一層大きな枠組みに発展・強化し、学生や博物館利用者、市民や地域社会への貢献をさらに高めることを目的の一つとしています。各事業の企画・運営は、博物館および文化財の学芸員と大学教員で構成される博学連携ワーキンググループを組織して行っています。

● 2019年度実績

■ 全国同時七夕講演会「ブラックホール…見えた?!」

七夕の日を中心とした前後の期間に、全国各地で同時に天文や宇宙の講演会を実施するイベントです。今回は包括連携協定締結を記念し、2019年春にリニューアルオープンした大阪市立科学館で、博学連携ならではの新しい発見、体験や学びの場となることを目的として実施しました。「ブラックホール」をテーマとしたプラネタリウム投影と、本学教員による講演を行いました。



講演会の様子

開催日: 2019年7月27日(土)
開催場所: 大阪市立科学館 プラネタリウムホール
参加者: 286名

	テーマ	講師
プラネタリウム投影	ブラックホール	石坂 千春 学芸員(大阪市立科学館)
記念講演	ブラックホール…見えた?!	石原 秀樹 教授(本学理学研究科)

■ 博学連携講座「中世の渡辺と渡辺党－淀川をめぐる武士団と信仰－」

渡辺党の組織や行動、当時の大阪平野の地形や渡辺津の実態、天満天神社とその周辺など、多様な角度から中世の渡辺について解明する連続講座を開催しました。

開催日: 2019年11月5日(火)、12日(火)、19日(火)、26日(火) (全4回)
開催場所: 大阪市立大学文化交流センター ホール
参加者: 440名(のべ)

	テーマ	講師
第1回	水の中世武士団渡辺党	生駒 孝臣 専任講師(花園大学文学部)
第2回	大川の変遷の中から中世の地形を読む	趙 哲済 学芸員(大阪市文化財協会)
第3回	中世の天満と天神社	大澤 研一 学芸員(大阪歴史博物館)
第4回	中世「なにわ」はどんな場所だったか －難波宮廃絶から蓮如・大坂御坊建立のあいだ－	仁木 宏 教授(本学文学研究科)

■シンポジウム「河内鑄物師の実像に迫る」

中世に、河内国丹南(たんなん)郡(現在の堺市美原区や東区日置荘)を拠点として活躍した鉄・銅の鑄造工人集団「河内鑄物師(かわちいもじ)」に焦点をあてて、専門分野の異なる各講師が最新の発掘調査や研究成果を報告し合い、ディスカッションを行いました。

開催日: 2019年11月30日(土)
開催場所: 大阪歴史博物館 4階講堂
参加者: 137名



岸本直文教授



	テーマ	講師
講演会	河内鑄物師を考える	岸本 直文 教授(本学文学研究科)
	河内鑄物師全国展開の虚実	市村 高男 名誉教授(高知大学)
	丹南鑄物師遺跡の調査－大阪府の調査を中心に－	小浜 成氏(大阪府教育庁文化財保護課)
	大阪市内の遺構・遺物からみた河内鑄物師とその系譜	小田木 富慈美 学芸員(大阪市文化財協会)
	中近世都市・堺の鑄物生産と金属精錬	嶋谷 和彦 学芸員(堺市文化観光局文化財課)
	河内の鑄鉄製銅釜と青銅製梵鐘	五十川 伸矢氏(鑄造遺跡研究会)
＜ディスカッション＞		

■ミュージアム連続講座「世界遺産と文化財」

2019年7月、百舌鳥・古市古墳群が大阪府内では初めて世界文化遺産に登録されました。この講座では、同古墳群やそれに関連する平野区長原遺跡について紹介しました。さらにヨーロッパなどの世界遺産や大阪府内の来訪神について取りあげ、国宝に指定されている貴重な文化財について講義を行いました。

開催日: 2019年12月5日(木)、12日(木)、19日(木) (全3回)
開催場所: 難波市民学習センター
参加者: 142名(のべ)



	テーマ	講師
第1回	国宝の陶磁器－油滴天目と飛青磁花生を中心に訪れる神と人びと	小林 仁 学芸員(大阪市立東洋陶磁美術館) 澤井 浩一 学芸員(大阪歴史博物館)
	古市・百舌鳥古墳群の歴史的意義	岸本 直文 教授(本学文学研究科)
第2回	倭五王を支えた人びと－平野区長原遺跡から－	清水 和明 学芸員(大阪市文化財協会)
	世界遺産にみる英国の先史時代	岡村 勝行 学芸員(大阪市博物館機構)
第3回	旅する芸術家と世界遺産	清原 佐知子 学芸員
	－大阪中之島美術館コレクションより－	(大阪中之島美術館準備室)

■共同研究

- ・戦略的研究(基盤研究/2019年度)
「豊臣期大坂城本丸の復元－文理融合・博学連携プロジェクト－」
代表研究者: 仁木 宏教授(文学研究科)

地域志向教育の取り組み

● 事業概要

本学では全学共通科目の履修において「地域志向系科目」2単位以上の修得が必須となっているほか、都市や地域社会が抱える課題とその解決の方策を現場で学修するプログラム「CR（コミュニティ再生）副専攻」を設置し、主体的に地域社会をデザイン・コーディネートする人材の育成を目指しています。また、地域と連携してCR副専攻の実習等に貢献しうる取り組みを行っている教員に対して、「地域志向教育研究補助事業」を通じて、助成を行っています。

● 2019年度実績

■全学共通地域志向系科目 開講：32科目

■CR認定専門科目 開講：31科目

■CR副専攻科目

科目名	履修学生数
地域実践演習Ⅰ～Ⅴ	34名
アゴラセミナーⅠa/Ⅰb	5名
アゴラセミナーⅡ	7名



フィールドワークの様子(アゴラセミナーⅠa)

■オープンキャンパスでのCR副専攻の紹介

高校生をはじめとするオープンキャンパス参加者に対し、CR副専攻の授業科目や取り組みについて、これまで実施してきた取り組みを交えたパネル展示や、学生が授業の中で取材・撮影した映像などの上映により紹介しました。

開催日：2019年8月10日(土)、11日(日)

開催場所：大阪市立大学杉本キャンパス 高原記念館1階 研究・交流スペース

参加者：700名以上(のべ)



オープンキャンパスでの様子

■アゴラセミナーⅡ 報告会

CR副専攻の集大成である「アゴラセミナーⅡ」を履修した学生が、学修した知識や実践力をもとに、自ら問題提起し、設定したテーマとそのテーマに対する解決方法について発表を行いました。当日は、一般参加者をはじめ、他大学の教職員や自治体関係者など、多くの参加者が聴講しました。

開催日：2019年8月11日(日)

開催場所：大阪市立大学杉本キャンパス 高原記念館1階 研究・交流スペース

発表テーマ	発表者(学部・学年)
八尾市における河内音頭の営み	文学部4年
中山間地域の空き家の活用方法	経済学部3年
コミュニティ主体の避難所運営 ～震災関連死を減少させるためには～	生活科学部3年
単身高齢者に対する地域の在り方	生活科学部3年
地域における移住と子育て政策上の課題	法学部3年
昭和町周辺の魅力について	文学部3年
大阪市沿岸地域の津波リスクと海との付き合い方	経済学部3年



アゴラセミナーⅡ報告会での発表の様子

■地域志向教育研究補助事業

地域と連携してCR副専攻の実習等に貢献しうる取り組みを行っている教員に対して、「地域志向教育研究補助事業」を通じて助成を行っています。2019年度は選考のうえ、この趣旨に沿った事業10件が採択されました。

COC+事業「わかやまの未来を切り拓く若者を育む “紀の国大学” の構築」

その他
事業

● 事業概要

2015年度の文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に、和歌山大学を事業主体として採択され、本学は参加校として参画しています。和歌山県および大阪府内の参加校と協力校、自治体や地元企業、団体等で“紀の国大学”を構築し、地域と協働して交流を図り、地域を活性化する人材、地元で活躍できる人材の育成を目指しています。

● 2019年度実績

■ 教育の地域志向化への展開

- ・全学共通科目「地域志向系科目」(32科目)を紀の国大学へ単位互換提供
- ・CR副専攻関係の一部科目を紀の国大学参加校へ開放
- ・本学・和歌山大学・和歌山工業高等専門学校での化学の専門教員が参画して2018年度に和歌山大学で立ち上げた地域専門科目を2019年度も引き続き開講し、共同で実習を実施

授業名	分野	テーマ	フィールド	協働先
地域実践演習Ⅲ	地域福利	紀伊半島の地域再興の学修	日高郡 日高川町 寒川	寒川地区寄合会、寒川区委員会、紀中森林組合、日高川町生活研究グループ、寒川ホテル保存会ほか
アゴラセミナー I a	地域福利	紀伊半島の地域再興の学修	新宮市	新宮市、熊野川行政局、みつの地域活性化協議会、小口自然の家、一般財団法人熊野川町ふれあい公社、NPO高田、新宮市観光ガイドの会、曹洞宗永福寺、三輪崎青年会、新宮市児童館など
プラスチック成形技術	わかやま未来学副専攻「地域専門科目」	和歌山県海南市の地場産業であるプラスチック製品の成形技術を学ぶ	和歌山市、和泉市	和歌山大学、和歌山工業高等専門学校、大阪産業技術研究所など



地域実践演習Ⅲ
(寒川神社の前で)

その他事業

■ 連携事業

企画名	内容	実施場所	協働連携先
命と生活のインフラ“まちづくり”：「御坊まち活性化ゼミナール」	紀の国大学3校と御坊市の職員が、商業施設オークワロマンシティ御坊店にて「楽しく遊びながら防災を学ぶ」をテーマに、住民向けのインターンシップワークショップを実施	御坊市	和歌山大学、和歌山工業高等専門学校、御坊市、オークワ
キャリアセミナー「業界・企業研究セミナー」に、わかやまブース設置	大阪市立大学で開催している「業界・企業研究セミナー」の一角に和歌山県の企業紹介ブースを設置し、学生100名近くが参加	大阪市立大学 杉本キャンパス	和歌山県庁、和歌山県企業(18社)
キャリアセミナー「特別講座&OBOG交流会」	地元で活躍している方を講師とした特別講座および和歌山に就職したOB・OGとの交流会を開催、学生約120名が参加	大阪市立大学 杉本キャンパス	和歌山県庁、和歌山県教育委員会、和歌山県企業(4社)ほか
紀の国大学認定制度	“紀の国大学”の事業理念である「わかやまの未来を切り拓く若者を育む」制度にCR副専攻受講生2名が参加	和歌山市	紀の国大学協議会



御坊まち活ゼミナール



業界・企業研究セミナー



特別講座&OBOG交流会



紀の国大学認定制度

■ その他実績

- ・「令和元年度COC+ 事業報告書」の作成(和歌山大学と連携)
- ・「令和元年度大阪市立大学地域志向教育活動事例集」の作成
- ・地域志向教育活動状況のWeb情報発信(大阪市立大学、和歌山大学、高知大学COCポータルサイトなど)

和歌山県の過疎地域における集落の維持・活性化と再編(データ利活用事業)

● 事業背景と目的

本学の地域貢献の主眼としてのシンクタンクの機能を発揮するために、データサイエンス強化を先取りする形で、大阪市の生活保護のビッグデータ分析や、大阪市内各区役所との地理情報に基づく地域分析や地域プロモーション、和歌山県データ利活用推進センターと共同で中山間地域の現状や将来分析も行っています。EBPMの一環として、職員研修も取り込み、公立大学の真価を発揮する重要な取り組みと位置付けています。

本事業の背景としては、中央省庁の地方移転の取り組みのもと、総務省統計局の一部機能が和歌山県に移転となり、それを契機として実施する和歌山県事業に、本学の研究チームが参画しました。データサイエンス強化に基づく、地方自治体との協働プログラムとして、シンクタンクの機能の錬磨に務めています。

● 事業概要

2017年度から和歌山県が始めた「和歌山県データを活用した公募型研究事業」に応募し、採択されました。和歌山県を対象として、明治行政村という新しい地理的統計単位を提案し、小地域データに基づいてこの新しい地理的範囲によるデータベースを構築、地理情報の可視化のためGIS（地理情報システム）分析を基本に、コーホート分析をはじめとする近年の人口動態の分析、集落再編のコスト試算や将来人口推計を行いました。

事業終了後も、研究チームを中心に若手研究者も交え、継続して和歌山県の中山間地域の諸課題についての地理情報の収集、分析を行っています。同時に県下すべての自治体を対象とした職員研修という形で、和歌山県との共同事業は継続して取り組んでいます。

● 2019年度実績

2018年度に引き続き、「ふるさと生活圏の維持について理解を深めるセミナー」と題して、人口推計の解説や人口データの可視化のスキル取得と分析結果の解釈といったデータ利活用方法について、講義と演習を実施しました。

■ ふるさと生活圏の維持について理解を深める セミナー

開催日：2020年1月15日(水)、16日(木)

開催場所：和歌山県データ利活用推進センター（和歌山市）、和歌山県立情報交流センター ビッグ・ユー（田辺市）

対象者：和歌山県職員及び基礎自治体職員

講師：水内 俊雄 教授(本学都市研究プラザ)

熊谷 美香 助教(弘前大学医学研究科・本学都市研究プラザ特別研究員)

